

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 58-119293

(43)Date of publication of application : 15.07.1983

(51)Int.Cl.

H04R 3/00

H04R 3/00

(21)Application number : 57-001396

(71)Applicant : NIPPON COLUMBIA CO LTD

(22)Date of filing : 08.01.1982

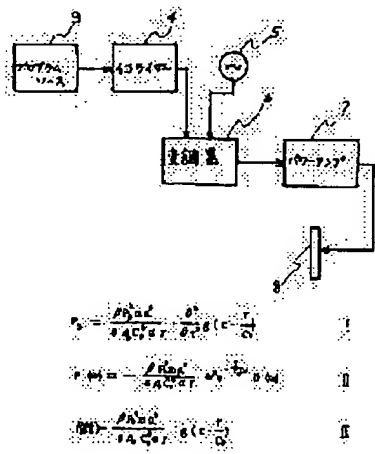
(72)Inventor : YONEYAMA MASAHIRO

## (54) ELECTROACOUSTIC TRANSDUCER

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an electroacoustic transducer having a smooth frequency characteristic over a broad band of an audible frequency band, by using non-linear operation of definite amplitude sound wave propagating in air and generating audible tone.

CONSTITUTION: A sound pressure of a demodulated sound wave obtained through a non-linear parametric operation is expressed as Equation I and the result of Fourier transformation is shown in Equation II. Since Equation I is also proportional to  $\omega^2$ , assuming that the frequency characteristics of an ultrasonic wave oscillator are flat in a required band, to reproduce audio signals with fidelity, it is required to pass the modulation signal through an equalizer having the characteristics of  $1/\omega^2$  before the amplitude modulation is done. Thus, when the signal passes through an equalizer 4, the sound pressure generated in air is expressed as Equation III, the sound pressure is proportional to the audio signal of a program source 3, no  $\omega^2$ ; is included in the proportional coefficient, allowing to obtain the flat frequency characteristics.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

*equalizer (filter) 4 for characteristic correction*

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

Best Available Copy

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開  
昭58-119293

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
H 04 R 3/00

機別記号  
H A C  
H A A

庁内整理番号  
6416-5D  
6416-5D

⑬ 公開 昭和58年(1983)7月15日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑭ 電気音響変換装置

川崎市川崎区港町5-1 日本コロムビア株式会社川崎事業所内

⑮ 特 願 昭57-1396

⑯ 出 願 人 日本コロムビア株式会社

⑰ 出 願 昭57(1982)1月8日

東京都港区赤坂4丁目14番14号

⑱ 発 明 者 米山正秀

⑲ 代 理 人 弁理士 山口和美

明 細 書

1. 発明の名称

電気音響変換装置

2. 特許請求の範囲

- (1) プログラムソースからのオーディオ信号でオーディオ信号周波数帯よりも十分高い周波数をキャリアとして振幅変調する変調器と、該変調器によつて変調された信号を電気音響変換する超音波振動子とを有し、有限振幅超音波を空气中に放射し非線形特性によるパラメトリック作用によりオーディオ信号を得ることを特徴とする電気音響変換装置。
- (2) オーディオ信号の周波数特性をイコライザーを通した後、該振幅変調器に入力することを特徴とする特許請求範囲第(1)項の電気音響変換装置。
- (3) 超音波振動子を複数個配置し、超音波出力周波数特性をスタガー状に結合して成る振動子アレーを具備したことを特徴とする特許請求範囲第(1)項または第(2)項の電気音響変換装置。

説 明

3. 発明の詳細な説明

本発明は可聴周波数帯の電気信号を音響信号として空中に放射するための電気音響変換装置に関するものである。

現在、電気音響エネルギー変換器としては、動電形直接放射スピーカとホーンロードスピーカが主である。いずれにおいても、空気と接する弾性振動板を機械的に振動させる事により音波を発生させる装置である。これらの装置が有する共通の欠点は広いオーディオ周波数帯で使用しようとすると、弾性振動板の機械的な多重共振共鳴により、得られる音圧の周波数特性には鋭い共振峰が生じる。この共振峰のQを低下させるために弾性振動板の内部損失を増大させる様な材料学的な配慮が必要である。

更に、弾性振動板の一致共振状態を保持させようとすると、可聴周波数帯を複数の帯域に分割し、各々の帯域に専用のスピーカを配する必要がある。いずれの技術を用いても、弱時点では

## 特開昭59-119293(2)

可聴周波数帯の低域から高域までフラットなまたは滑らかな周波数特性を得る事は困難である。

本発明は、可聴周波数帯の広帯域に亘つて、滑らかな周波数特性を有する電気音響変換装置を得る事を目的とし、このため従来のスピーカ等の音響変換器とは全く異なる手段、つまり空気の非線形性による有限振幅音波のパラメトリック作用を利用するものである。

媒質中での音波の伝播は線形な波動方程式で記述されているが、これは音圧変動が無限小の場合を仮定しており、この場合のみ有効な方程式である。音波の音圧変動の振幅が次第に大きくなり、無限小とは考える事が出来ず、有限な振幅を有する音波と考えられる場合には、伝播媒質は非線形性を表わし、音波の伝播を記述する波動方程式も非線形な方程式となる。この様な有限振幅音波は非線形性を有するが故に、線形波動伝播特性からは想像出来ない種々の挙動を示す。

種々の非線形効果の中でパラメトリック作用として知られている現象がある。

ここで、 $g(t)$  : オーディオ信号、 $\omega_0$  : 超音波領域の角周波数。

ここで、振動子からは有限振幅の超音波平面波ビームが発生するものとし、ビームの半径を  $a$  とする。またビームにそつて  $x$  軸を考え振動子面上で  $x=0$  とすると振動子からは(1)式で表わされた有限振幅超音波が第1図に示す様に放射されることになる。

今、 $x$  点での進行波の音圧  $P$  は

$$P = P_0 \left\{ 1 + m \cdot g \left( t - \frac{z}{c_0} \right) \right\} e^{-\alpha z} \cos(\omega_0 t - k_0 z) \quad (2)$$

ここで、 $c_0$  : 音速、 $\alpha$  : 角周波数  $\omega_0$  の音波の減衰係数、 $k_0 = \omega_0 / c_0$ 、 $P_0$  : 初期音圧。

次に、第1図のビーム内の音場を求める。

完全流体を振つた流体の力学における連続の方程式と運動量方程式をテンソル表示するとそれぞれ次式を得る。

$$\left. \begin{aligned} \frac{\partial \rho}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x_i} (\rho v_i) &= 0 \\ \frac{\partial}{\partial t} (\rho v_i) + \frac{\partial}{\partial x_j} (\rho v_j v_i) &= - \frac{\partial T_{ij}}{\partial x_j} \end{aligned} \right\} \quad (3)$$

(3)式において、 $\rho$  : 空気の密度、 $v_i$  : 速度テン

これは水中で周波数のわずかに異なる2つの有限振幅超音波ビームを同軸上に重ねて放射した場合、水の非線形性により、2つの超音波の差と和の周波数を有する音波が発生する現象である。この場合、発生した音波は、メインビームと同等の指向性パターンを有するのが特徴である。

この現象は水中での超音波性長距離用ソナーに適用する研究がなされている。

本発明は音波のパラメトリック作用に着目し、弾性振動板を直接オーディオ信号で振動させる事なく空気中を伝播する有限振幅音波の非線形作用を利用して可聴音の発生を得んとするものである。今、空気中を進行する有限振幅超音波のエンベロープに時間的変化がある場合には、非線形効果による自己検波作用が生じ、エンベロープ成分の発生が予想される。以下、この件について数学的解析手段により現象を説明する。

超音波振動子に式(1)に示すようなAM波電圧を印加する。

$$V = V_0 \{ 1 + m \cdot g(t) \} \cos \omega_0 t \quad (1)$$

ソル、 $T_{ij}$  : ひずみテンソル。更に  $T_{ij}$  は

$$T_{ij} = p \delta_{ij} + \rho v_i v_j - p c_0^2 \delta_{ij} \quad (4)$$

(4)式において、 $\delta_{ij}$  : Kroneckerのデルタ関数。したがつて(3)式より  $\rho$  に課する次式のごとき波動方程式を得る。

$$c_0^2 \left( \nabla^2 p - \frac{1}{c_0^2} \frac{\partial^2 p}{\partial t^2} \right) = - \frac{\partial T_{ij}}{\partial x_j} \quad (5)$$

式(5)の右辺を計算して、全体をオーディオ信号の音圧  $P_0$  に関する波動方程式にすると次式を得る。

$$\nabla^2 P_0 - \frac{1}{c_0^2} \frac{\partial^2 P_0}{\partial t^2} = - \frac{\beta}{\rho_0 c_0^2} \cdot \frac{\partial^2}{\partial t^2} [P_0]_s \quad (6)$$

ただし、 $\beta$  : 空気の非線形パラメータ。

また  $[P_0]_s$  は  $P_0$  の内で変調信号に関与する成分を表わす。式(6)の右辺は超音波の干渉によつてノイズビーム中に生ずるオーディオ信号の仮超音波密度を表わし、左辺は、これによつて生じるオーディオ音場の音圧音場を表わしている。式(2)より  $[P_0]_s$  を計算すると次式のごとくなる。

$$[P_0]_s = P_0^2 \left\{ m \cdot g \left( t - \frac{z}{c_0} \right) + \frac{1}{2} m^2 g^2 \left( t - \frac{z}{c_0} \right) \right\} e^{-2\alpha z} \quad (7)$$

ここにおいて、 $m$  は変調の深さを表わすパラメータで  $m < 1$  である。今、 $m \ll 1$  が成り立つような浅い変調を考えると、式(7)右辺の第2項は第1

DOCUMENT 1/1  
DOCUMENT NUMBER  
@: unavailable

1. JP,58-119293,A(1983)

項に比べて十分小さくなり無視出来る。

したがって、この場合には

$$[P]_0 = P_0 \cdot \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) e^{-\alpha x} \quad (9)$$

式(9)を用いて、式(8)の運動方程式を解くと

$$P_0 = \frac{\beta H_0}{1 + \frac{\beta H_0}{4 C_0^2}} \int_0^{\frac{1}{2} \frac{C_0}{\beta H_0}} \frac{e^{-\alpha x}}{1 - \frac{r}{C_0}} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) dx \quad (10)$$

ただし、 $x$  : 観測点の位置ベクトル、 $W'$  : 音源の位置ベクトル。

いま、超音波が円筒状のビームを形成していると仮定し、遠方音場近似を用いて(10)式の積分を実行すると次式を得る。

$$P_0 = \frac{\beta H_0}{4 C_0^2} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \quad (11)$$

ただし、 $r$  は振動子の中心から、船上の観測点までの距離を表わす。

式(11)が非線形パラメトリック作用によって得られる振動音場の音圧を表わしている。

勿論、ビーム中にほかにこの外にも $\omega_0$ 成分が存在し、更に非線形効果によって $2\omega_0$ 成分も発生する。しかし、 $\omega_0$ を十分に高い周波数に設定しておけば、これらの成分は空気中での減衰が激しいために比

イコライザーにより、 $f_0 = 220 \text{ kHz}$  のとき  $\alpha = 1$  (100%減衰)となるので、周波数特性の干渉特性の下限は  $220 \text{ kHz}$  となる。振動子アレーの半径を  $\alpha = 10 \text{ cm}$  とし、これより2倍離れた船上の点でのオーディオ帯域の音圧を初期音圧  $P_0$  をパラメータとして計算した結果を表-1に示す。

計算にあつて、式(12)の各パラメータの値を次の様に決めた。

$$\beta = 1.2, \quad H_0 = 1.2 \text{ kg/m}^2, \quad C_0 = 340 \text{ m/s}, \quad \alpha = 0.19 \text{ nepers/m}, \quad \omega = 0.05 \text{ (} = 1 \text{ kHz のとき) }, \quad r = 20 \text{ m}$$

$R \text{ (cm)}$	120	130	140	150	160
$R \text{ (cm)}$	20	40	60	80	100

したがって、この場合には、実用的な音圧の音圧を得るためには、初期音圧として  $150 \sim 160 \text{ dB}$  が必要である。

次に減衰係数を正数とした時の第2高調波ひずみ率について計算する。

$$E(\%) = 100 \cdot \alpha \quad \text{とすると、得られる音圧は式(12)より}$$

特開58-119293(a)

振の早く消滅し、遅方での音場としては式(10)で表わされる成分のみが残ることになる。

ここで  $P_0$  および  $E(\%)$  のフーリエ変換をそれぞれ次のごとく表わす。

$$P_0(\omega) \leftarrow P_0, \quad E(\omega) \leftarrow 0 \text{ (Hz)}$$

式(10)の両辺をフーリエ変換すると

$$P(\omega) = -\frac{\beta H_0}{4 C_0^2} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \quad (11)$$

式(11)は  $\omega$  に比例している事が認められる。

したがって、もし超音波振動子の周波数特性が必要帯域内で平坦であると仮定するならばオーディオ帯域の周波数特性のために低周波成分をかなり低減した信号を予め  $1/\omega^2$  のイコライザー(例えば  $-12 \text{ dB/oct}$  に相当するイコライザー)に通す必要がある。

この場合、パラメトリック作用により、空中において発生する音圧は

$$P(\omega) = \frac{\beta H_0}{4 C_0^2} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \quad (12)$$

で表される。

本発明の構成を第2図に示す。

$$f_0 = 10^{\text{kHz}} \text{ のとき } \alpha = 0.05 \text{ に調整すると } 1/\omega^2$$

$$P_0 = \frac{\beta H_0}{4 C_0^2} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \quad (13)$$

一方、第2高調波成分(パラメトリック作用によって発生する)の音圧は式(11)より

$$P_2 = \frac{\beta H_0}{4 C_0^2} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \cdot \frac{\beta H_0}{4 C_0^2} \cdot \frac{d^2}{d^2 x} \left(1 - \frac{r}{C_0}\right) \cdot \cos 2\omega_0 t \quad (14)$$

したがって、第2高調波ひずみ率は

$$E = \frac{|P_2|}{|P_0|} \times 100\% = 2 \times 100\%$$

$E$  と周波数の関係を表-2に示す。

表-2

$f$	250 Hz	500 Hz	1 kHz	2 kHz
$E$	7.9%	15.9%	31.8%	63.6%

イコライザーの周波数特性を第3図に示す。更にこの場合のスピーカの周波数特性を第4図に示す。

式(12)を検討すると、音圧はプログラムソースのオーディオ信号に比例している。更に比例係数は  $\omega$  が含まれないので、平坦な周波数特性が得られることがわかる。

次に電圧音響変換器の一実施例について説明する。

第5図に示すごとく電圧音響変換器への入力音

BACK NEXT

MENU SEARCH

HELP

JP,58-119293,A © STANDARD © ZOOM-UP ROTATION No Rotation

RELOAD

PREVIOUS PAGE

NEXT PAGE

DOCUMENT 1/1  
DOCUMENT NUMBER  
@: unavailable

1. JP,58-119293,A(1983)

号は角周波数を中心として $\pm 15\text{kHz}$ つまり $30\text{kHz}$ の帯域幅を有している。したがって電気信号を音響信号に変換する電気音響変換器においても、角周波数として $30\text{kHz}$ の帯域幅が要求される。

パラメトリック・スピーカ用の電気音響変換器としては次の2点を満たす必要がある。

(1) 有限帯域レベルの帯域幅を有する事。

(2) 少なくとも、 $30\text{kHz}$ の帯域を有する事。

上記(1)の条件を満たすためには、単一の振動子を用いるよりも、密着型に示す様に複数の振動子をアレー状に配置して用いた方が有利である事が既に知られている。

更に音響波の周波数が高くなると、電気音響変換効率が悪くなり、また空気中での減衰も強くなるので、 $\omega$ としてはかなり高い周波数は望ましくない。

次に上記(2)の条件を満たすことを考える。

一般に超音波振動子の $\omega$ は相対的に高いので、帯域幅を確保するためには、出来るだけ $\omega$ を高く選んだ方が有利である。

特開58-119293(4)

したがって、上記条件(1)は互いに矛盾することが解る。この矛盾を解決する一方法として比較的低い $\omega$ を選び、アレーを構成している各振動子の共振周波数を適当に異なる周波数に設定し、各振動子を並列駆動した時、共振全体として図5図に示すように各振動子の周波数特性がスタガー状に並び、全体として必要帯域をカバーする様になればよい。

例えば仮りに、 $f_1 = \omega/2\pi$ を $100\text{kHz}$ とすると振動子アレーとしては $85\text{kHz}$ から $115\text{kHz}$ で少なくともカバーしなくてはならない。今、振動子の $\omega$ を $50\text{MHz}$ と設定し、 $100\text{kHz}$ 附近に於いては低下点での帯域幅を $2\text{kHz}$ と考えると、各振動子は共振する振動子と $\omega$ 低下点で相交わる様に設定すると各振動子間の中心周波数の差は $4\text{kHz}$ となり、 $30\text{kHz}$ 帯域幅を確保するには約8個の振動子が必要である。

上記の様に比較的低い周波数を用いても必要帯域が確保出来るので、広帯域有限帯域波を放射しやすくパラメトリック・スピーカの実現が可能である。

る。

4. 図面の簡単な説明

第1図は振動子より有限帯域の超音波が放射され、平面波として伝播していく様子を示す。

第2図は本発明の一構成図である。

第3図は本発明の一実施例に用いられるイコライザーの周波数特性を示す。

第4図は本発明の一実施例の音量出力である音圧周波数特性を示す。

第5図は本発明の一実施例の受信された信号の周波数スペクトラムを示す。

第6図は振動子をアレー状に配置する一実施例を示す。

第7図は第6図の各振動子の周波数特性をスタガー状に結合して広帯域化特性を得ることを示す図である。

1は超音波振動子、2はビーム、3はプログラムソース、4はイコライザー、5は共振器、6は共振変換器、7はパワーアンプ、8は振動子アレーである。

-536-

BACK

NEXT

MENU

SEARCH

HELP

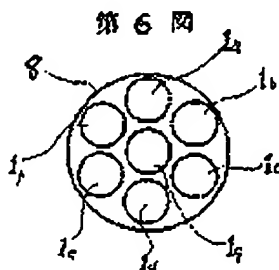
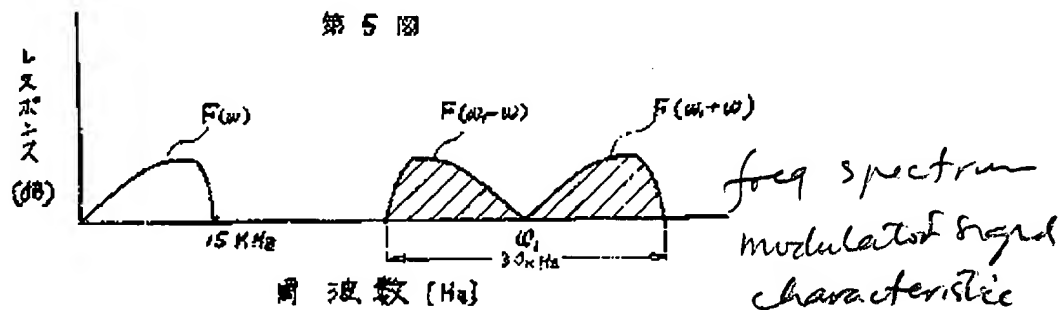
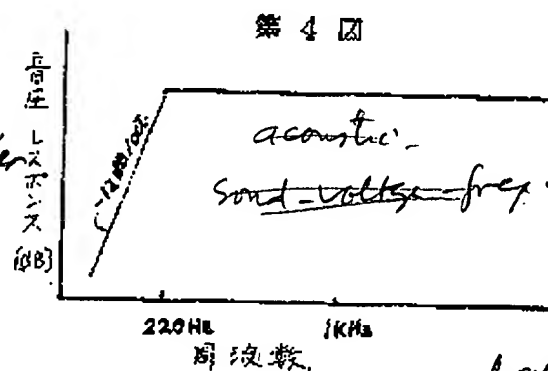
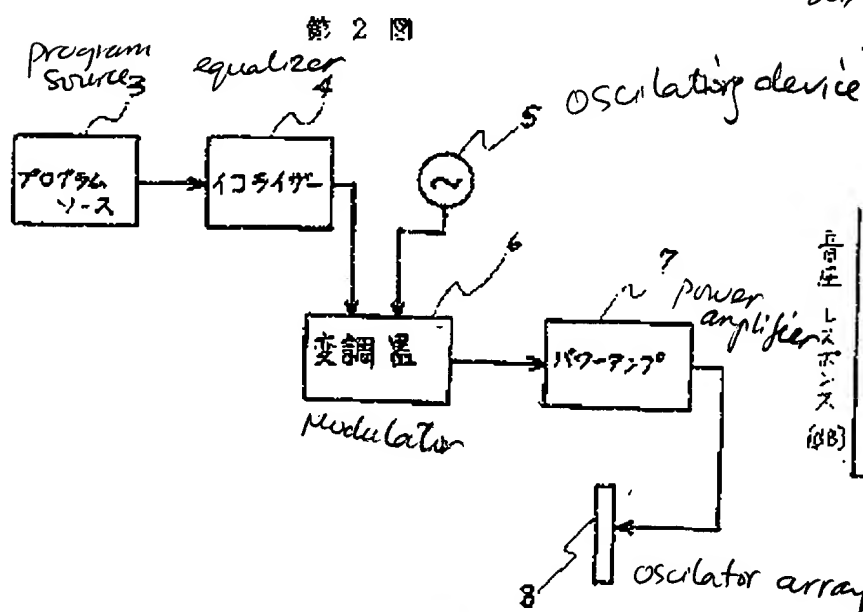
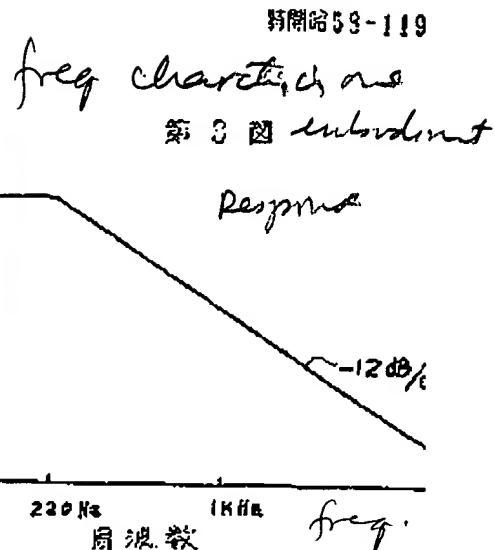
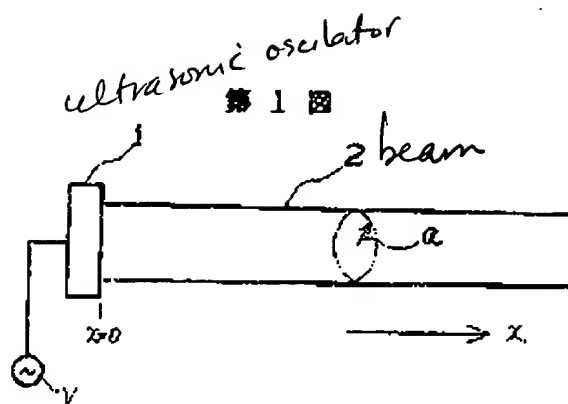
JP,58-119293,A

© STANDARD © ZOOM-UP ROTATION No Rotation

RELOAD

PREVIOUS PAGE

NEXT PAGE



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**